

報道関係者 各位

2009年3月23日
オンコリスバイオフーマ株式会社

オンコリスバイオフーマ株式会社は、岡山大学病院での「テロメライシン®」と放射線治療の併用臨床研究に対するウイルス製剤提供を決定

オンコリスバイオフーマ株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:浦田泰生)は岡山大学大学院 田中紀章教授と同大学病院 遺伝子・細胞治療センターの藤原俊義准教授らが創製した、腫瘍(しゅよう)融解ウイルス「テロメライシン®」と放射線治療を併用した遺伝子治療の臨床研究の実施を同大学病院に申請するにあたり、同臨床試験で使用するGMP化したウイルス製剤の供給を決定いたしました。

藤原准教授らの研究チームは、今回の申請後、厚生労働省の試験実施了承を経て、臨床研究を実施する予定です。

今回の臨床研究では、頭頸部(けいぶ)、食道、肺の悪性腫瘍を対象とし、テロメライシンを患部に注射後、総線量60グレイの放射線を6週間にわたって照射します。この間に、テロメライシンの投与を計画しております。なお、一人の患者には、投与するウイルスの濃度を同一に保ち、患者毎に、段階的にウイルス量を100億個、1000億個、1兆個と上げていく計画です。

今後とも当社は同大学との共同研究を積極的に推進する予定です。

「テロメライシン®」は、風邪ウイルスの一種である、アデノウイルスのベクター構造E1領域に、がん細胞の増殖にかかわるテロメラーゼという酵素を構成するプロモーターを遺伝子改変によって組み込み、癌細胞中で特異的に増殖して癌細胞を破壊することができるようにした、ウイルス製剤です。「テロメライシン®」がヒトのがん細胞に感染すると一日で10万~100万倍に増え、がん細胞を破壊します。一方「テロメライシン®」は正常組織細胞にも同様に感染はしますが、そこでの増殖能力は癌組織に比べ非常に弱いため、正常組織細胞に対する損傷は少ないと考えられます。

「テロメライシン®」は、当社が昨年までに米国で実施した、癌患者に対する臨床試験において、重篤な副作用は認められておらず、一部の患者では投与部位での腫瘍縮小効果が認められております。また、マウスにヒトの肺がん細胞を組み込んだ岡山大学での実験でも、「テロメライシン®」と放射線治療を併用した場合に6匹中、3匹で腫瘍の消滅が認められております。

藤原准教授は今回の臨床研究に関して「放射線治療との併用だが、副作用は少ないと考えている。どういった種類のがんに有効なのかを見極め、新たな臨床試験の実施にもつなげたい」と述べております。当社としても、既存の治療方法との併用に関する臨床試験が実施されることにより、「テロメライシン[®]」の効果が増強され、副作用の多い化学療法剤の投与量を減らすことが出来る可能性が考えられる点で、癌患者のQOL (Quality of Life) を改善することができると期待し、医療に大きく貢献できるものと考えています。

オンコリスバイオフーマ株式会社について

オンコリスバイオフーマは、癌と感染症を克服するための新薬開発を行っている未公開企業です。主要プロダクトである「テロメライシン[®]」(開発コード:OBP-301)は、現在各種固形癌をターゲットとして米国での第 Ⅲ 相臨床治験を終了しております。第 Ⅲ 相臨床試験以降は、台湾メディジェン社との戦略提携により共同開発を開始予定しております。

岡山大学と共同で開発した「テロメスキャン[®]」(開発コード:OBP-401)は、GFP を用いた世界で最初の診断用医薬品として実用化を目指し、シスメックス株式会社との共同研究開発を進めております。

また、RNA 干渉技術を用いた新規の C 型肝炎治療薬として米国 Tacere Therapeutics 社よりアジア 45 カ国におけるライセンスを獲得いたしました OBP-701 に関しましては、昨年 1 月に米国 Pfizer 社と導入元である Tacere 社との間での欧米における提携が発表され、現在 Tacere 社において、前臨床試験が実施されております。

更に詳しい情報については、次のウェブサイトをご参照下さい。(www.oncolys.com)

< 本件に関するお問い合わせ先 >

オンコリスバイオフーマ株式会社

業務管理部 広報・IR 担当 / 江塚 ・ 松本

Tel: 03-5575-3378

Fax: 03-5575-0488

E-Mail: anticancer@oncolys.com